



明化の教育

5月号 (第522号)

令和6年4月30日

文京区立明化小学校

校長 熊倉 勝

教育の基盤は信頼に支えられた人間関係

校長 熊倉 勝



1年生を迎える会では、明化小伝統のペンちゃん
とパンダくんが1年生を迎えてくれました。

「おはようございます。最初はグー、じゃんけんぽん。イーイー」この言葉が、体育館棟1階に響きます。私は、毎朝体育館棟通路で入室を待っている子供たちとじゃんけんをしてから、玄関に向かっています。じゃんけんを楽しみに待っている1年生もいて、うれしくなります。たった一回のジャンケンですが、毎日続けることで、子供たちとつながりがもてるようになって信じています。そして挨拶は笑顔で、子供たちの目を見て、できるだけ元気にするようにしています。私の笑顔で少しでも子供たちが明るい気持ちになってくれればとの思いからです。

さて、4月は「教育の基盤は信頼関係に支えられた人間関係」を基に子供との信頼関係作りにも力を入れてきました。そのための手立ては、多種多様にあり、教員一人一人の個性によって違ってよいと

思っています。その中で一般的に毎日続けられ、子供の意欲を高めるものを3つ紹介します。

○日常の挨拶をきちんとする

日本には無理に会話をしなくても、自然と言葉を交わせる文化があります。これを丁寧に行うだけでも、子供に「しっかりあなたを見ているよ」というサインとなり、信頼関係作りにつながります。

○共感する

意見が異なったり、大人として自分の意見を言ったりするのはとてもよいことです。しかし、子供の話には必ずいったん共感します。意見や考えが異なる場合でも「そう感じた事は分かるよ」「それは嫌だったね」など共感する事から話を始めることが大切だと思っています。子供は、共感してくれる人には話をしやすいものです。

○認める

「褒める」というのはよく聞く言葉かもしれませんが、褒めるだけではなく、認めることもとても大切です。これが自然とできるようになる最大のポイントは、「頑張った部分（過程）とできた部分（結果）を分けて考える」ことです。もちろん、分かりやすく成果が出た時はしっかりと褒めます。しかし必ずしも成果がでるとは限りません。成果がでなかった時もその過程を見ることで、自然と子供を認める声かけができるようになります。

具体的な場面で考えてみます。どちらの声かけがよいでしょうか。

- ・18時までには帰ってくると約束したのに、走って帰ってきて18時10分だった場合

A「なんで約束を守らないの！」

B「走って帰ってきたその気持ちは認めます。でも約束は守らないといけないよ。」

- ・宿題を全部終わらせる約束をしたら、答えを全部写していたことが分かった場合

A「そんなことしてなんの意味があるの！答えを見るなんてダメじゃない！」

B「宿題をきちんと終わらせる約束を守ったのは分かります。その気持ちはこれからも持ち続けてほしい。ただ、答えを写してもあなたのためにならないよ。」

どちらもAは結果を重視した声かけです。Bは過程を重視した声かけです。結果を見て、ただ頭ごなしに叱るよりも、過程を重視した声かけをしたほうが、その後の関係性はよくなっていくと考えます。関係性がよくなっていけば、こちらの言い分も聞くようになります。

子供は何も考えずやっただけのことだとしても、「それでもここは頑張ったと思うよ」と大人が認めると、不思議なもので、子供は認められた行動を意識するようになります。そうすると、認められなかった時よりも確実にその行動を重ねやすくなると思うのです。

大切なことは、子供の気持ちに寄り添うことだと考えています。子供たちとの信頼関係を築くことを基に、子供たちが笑顔で毎日喜びと期待をもって登校できるように力を尽くして参ります。